

事業コード	H17-建-継-16		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2516
路線名等	二級河川 三種川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	山本郡八竜町川尻～山本町森岳		担当者名	主幹(兼)班長 秋元 良三
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	02	施 策 名	災害に強い県土づくり
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	S56 ~ H23 (31年)	総事業費	87.2億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長L=5,300m 計画高水流量 330m <sup>3</sup> /s					
事業の立案に至る背景	三種川は、川幅が狭小で蛇行していることから、毎年のように耕地や宅地が広範囲にわたって浸水し、地域住民に多大な影響を及ぼしてきた。特に対象区間は住宅が密集しており、周辺には、山本中学校、森岳駅等の重要な施設が位置し、それらを結ぶ県道、町道、JR等の交通幹線が洪水時に寸断される恐れがあり、地域住民の生活を脅かしている。このため、河道拡幅や橋梁の架け替え等を実施し、洪水被害を解消させ、地域住民が安全で安心できる地域づくりを行うものである。					
事業目的	大きな被害を被った昭和54年洪水規模の流量を安全に流下させる断面を確保し、浸水被害を防止する。 また、地元住民が水に親しめるような環境に配慮した川づくりを行う。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	8,714,000	8,714,000	0		
	経費内訳	工事費	4,745,000	4,745,000	0	
		用補費	2,784,000	2,784,000	0	
		その他	1,185,000	1,185,000	0	
	財源内訳	国庫補助	4,357,000	4,357,000	0	
		県 債	3,921,300	3,921,300	0	
その他		0	0	0		
一般財源		435,700	435,700	0		
事業内容	築堤、護岸 道路橋 JR橋	築堤、護岸 道路橋 JR橋				
事業の進捗状況	全体事業費 87.14億円 H16年度末投資額 70.27億円 進捗率 80.6%					
事業推進上の課題	特になし。					
関連する計画等	上位計画である「あきた21総合計画」の中で河川の氾濫から人命や財産を守り、安全で安心な地域をつくる河川改修の推進に位置付けられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	当該区間は、住宅密集地を流れる河川であり、過去に洪水被害が発生していることから、地元からの改修要望が非常に高く早期完成が必要である。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44 %		データ等の出典	県河川砂防課調べ	
	実績値 b	44.4 %				
達成率 b/a	100.9 %		把握の時期	平成17年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	治水上最重要区間である市街地区間が未改修であり治水安全度が低いため、地元より早期完成が望まれている。	36 点
緊 急 性	現況河川の流下能力が低く、氾濫した場合の市街地の被害は甚大である。また、町道や県道を分断し、交通にも多大な影響を及ぼす恐れがある。	13 点
有 効 性	(整備効果) ・河川断面の拡幅により、昭和54年の水害規模の流量を流下させることができる。 ・散策路や階段を設ける等、水に親しめるような川づくりを行う。	18 点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用便益費は2.58であり、効率性は高い。 (コスト縮減の取り組み状況) 仮締め切りについて、現況河川堤防を利用し仮設費のコスト縮減を図る。	11 点
熟 度	(地域の状況) 地元沿川自治会より河川改修事業に対して強い要望がある。 (事業進捗の見込み) JR橋架け替え工事がH16年度に完了し、H17年度から歌橋上流の用地買収及び河道拡幅工事に本格的に着手する。 (環境対策) 基本的にコンクリートなどの人工的な構造物の築造を最小限にとどめ、自然素材のものを使用する。	10 点
判 定	ランク ( ) 地元からの要望が高く、「重要性」「有効性」「効率性」等から事業の必要性は高く評価できるものとする。	88 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。
---------------------------

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H17-建-継-16 )  
箇所名 (山本郡八竜町川尻～山本町森岳 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況					
	浸水戸数	50戸以上 49～10戸 10戸未満	10 7 3	10		
	浸水面積	60ha以上 59～10ha 10ha未満	10 7 3	10		
	重要な公共施設	3施設以上 2～1施設	5 3	5		
	整備計画の策定					
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある	5 3 1	3		
	事業の進捗状況					
	進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90～100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	5 3 1	3		
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 将来的な課題はあるが当面進捗に影響がない 課題は解決の見込みが無く事業が停滞する	5 3 1	5		
	計			40	36	
	緊急性	災害発生危険度				
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40～59% 60%以上	10 7 3	10	
秋田県水防計画						
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	3		
計			15	13		
有効性	上位計画への貢献度					
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 1	5		
	河川整備の有効性					
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない	5 2	5		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる 親水性は現状と変わらない	7 3	7		
	地域開発の状況	都市計画区域の存する地域 地域開発の計画がある	3 1	1		
計			20	18		
効率性	事業の投資効果					
	費用便益比(B/C)	2.0以上 1.0以上～2.0未満 1.0未満	5 3 1	5		
	事業実施コストの縮減					
	該当項目数	3項目以上 2項目 無しまたは1項目	5 3 1	1		
	当初計画との比較					
当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 1	5			
計			15	11		
熟度	環境との調和への配慮状況					
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で検討している 特に配慮はない	5 3 0	5		
	地元との合意形成の状況					
地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1	5			
計			10	10		
合計			100	88		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		